



2016.5.24.TUE  
白馬村キックオフ

# 白馬アイデアキャラバン便り

HAKUBA IDEA CARAVAN LETTER



## 白馬アイデアキャラバンについて

### 白馬村キックオフワークショップ

- 【日時】2016.5.24.(火)
- 【場所】白馬村農業体験実習館
- 【スケジュール】
  - 白馬村副村長よりご挨拶
  - 白馬村総合計画策定について
  - 総合計画基本構想の内容について
  - [講演] 多様な人たちと作り上げるまちづくりについて
  - [ワーク] 村民ができることと村外の人に求めること
  - 閉会のご挨拶

白馬村では現在、今後10年間の村づくりの指針となる「白馬村第5次総合計画」のうち、前期5年間の基本計画の策定を進めています。2015年度は「白馬アイデアキャンプ」と題し、将来の村づくりにかかわる観光や農業や教育など分野について意見交換をしました。みなさんより提案されたアイデアをもとに、「白馬村アイデアキャラバン」では、アイデアを実現する住民アクションを考えていきます。

の影響を受けやすい白馬村だからこそ、将来の村のあり方を考えるにあたり、受け入れた多様な人たちが、互いに学び合えるまちにすることを基本構想として掲げました。

【基本構想】白馬村の基本理念

### 白馬の豊かさとは何か-多様であることから交流し学びあい成長する村-

白馬村には、世界中の人を惹きつける多様な価値を持つ自然環境があります。その土地の暮らしに根付いた多様な歴史や文化も各地区に残っています。そして、移住者や来訪者も含めた白馬を愛する多様な立場の人たちがいます。社会変化の影響を受けやすく、これまでも多くの変化に対応してきた白馬村だからこそ、村内外からの「多様性」から「学びあう」ことを意識し、様々な分野で「白馬の豊かさ」を発見しながら成長していく必要があります。これからの10年間、白馬に集うみなさんが「白馬の豊かさとは何か」を問いつづけることによって、激しい社会変化にもお互いに知恵を出し合い、手を携えながら乗り越える、そして、一人ひとりが「豊かさ」を感じながら成長することができる白馬村を目指していきます。

## 白馬村副村長より



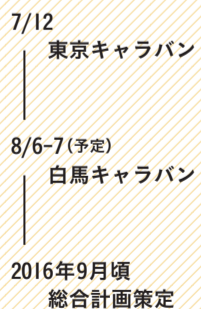
今回の総合計画では、村民に主眼をおき計画策定を進めています。お集まりいただいたみなさまは、地域の中で様々な取組みをされているかと思いますが、考えていることやできることが同じ人もいれば違う人もいます。それぞれの立場をもって意見を出しあい、より実現性の高いものを検討できればと思います。

## 講演

人口減少時代を迎えるにあたり、定住人口増ばかりを考えていると挫折が待っているかもしれません。地域づくりを生み出し、そこに関わる「活動人口」を増やすことが重要なテーマになってきます。将来、定住人口は減っても活動人口は増えているまちであれば、何か新しいことができたり、住みよい暮らしが待っている期待が生まれます。そこで弊社が関わる2つの事例を紹介します。

## 策定状況について

総合計画は、今後10年間の村の基本方針となる「基本構想(2015年3月議会承認済み)」と具体的な動きを示す「基本計画」から成ります。今年度はアイデアキャラバン等を通じて、基本計画を検討します。7月には東京にて、白馬ファンを集めたワークショップを、8月には白馬村にて村民と都市部の人と一緒に意見交換ができる場を設ける予定です。



## 基本構想について

昨年度実施したヒアリングやアイデアキャンプを通じて、4つの柱(①産業②自然③ひと④暮らし)が見えてきました。そして、その中でも大事なキーワードとして「多様性」と「学び」があります。観光地として多様な人を受け入れる自然環境がある中で、伝統的な暮らしが残る地域でもあります。観光地として成長し、社会変化



### 大山町未来づくり10年プラン

住民を主体とした総合計画策定の事例です。計画のテーマは「楽しさ自給率の高いまち」。お金を払って誰かに楽しませて貰っているのでは自給しているとはいえません。町外で遊んでいれば地域経済にも繋がりません。食料自給率やエネルギー自給率も大事ですが、自分の人生は自分の身の回りにあるもので楽しむことが活動人口を増やすことになるという計画と活動になります。



### 富岡市世界遺産まちづくり

富岡製糸向上を世界遺産にするために、市民の機運を高め地域活動へとつなげた事例です。世界遺産になることでメリットもありますが、人が押し寄せるデメリットも考えられます。そこで例えば300万人が一斉に来るのではなく、長い時間をかけて300万人に来てもらい、さらに来てもらった人が地元の人と友だちになり、何度でも来てもらえる関係性を築けるような市民活動を目指しました。



# アイデアキャラバンであがった 自分にできることと必要な人やスキル

基本構想4つの柱である①産業②自然③ひと④暮らしについて、現状の課題に対して、村民それぞれができることと、これからの計画や活動を実現していくうえで求める人やスキルについての意見交換をしました。「自然」では、里山や休耕地を有効活用できる人、またそれらの人材を育成できる人がいることがわかりました。「産業」では、インバウンドを受け入れるために多言語による情報発信ができる人や、特産品のブランディングができる人の存在があげられました。「ひと」では、スポーツの指導ができることや、スポーツを楽しんだ後に文化や芸術を楽しめる仕組みがあるとよ

いといったことが話されました。「暮らし」では、観光に関わるテント等の道具や交流スペースを貸すことができる人材がいることがわかりました。また、高齢化に対応する福祉スキルを持つ人が必要なことがあがりました。ワークを通じて、自分ができることが沢山あげられたということは、白馬村にはそれだけ優秀な人材が揃っているとも見えます。自分たちができることが明確に揃っているからこそ、これから白馬に関わろうとしている村外の人でも入りやすい環境があるといえます。以下はテーマごとにあげられた意見の抜粋です。

## 抜粋意見の見方

左 2015年度アイデアキャンプから見えた課題 …………… 右 今回のアイデアキャラバンで提案されたこと

## 自然について

### 自分にできること

- 里山の維持 …………… マウンテンバイクやウォークランに使えるトレイルの整備
- 休耕地の有効活用 …………… グループでの米作り
- 中心部の景観改善 …………… 景観デザインが多少できる
- 除雪体制の維持 …………… 除雪機械の運転ができる
- その他 …………… 白馬の自然を守る人材の育成

### 実現するために必要な人やスキル

- 休耕地の有効活用 …………… エコロジーなイベントを催せる人
- 中心部の景観改善 …………… 補助金を持ってこれる人



## 産業について

### 自分にできること

- 雇用先の確保 …………… 企業に雇用関係助成金の提案ができる
- 後継者の確保 …………… そば打ちの若い後継者を探している職人の紹介と場所の提供
- 観光産業の推進 …………… 高校生がプロデュースして企画運営をする
- 外国人への情報発信 …………… インターナショナル人材を活かしてキャンプができる
- 観光生産物のブランド化 …………… 農産物のブランド化への支援

### 実現するために必要な人やスキル

- 観光産業の推進 …………… 「山」にもっと深く関われる観光資源づくり
- 観光産業の推進 …………… 着付け・マッサージなどをやってくれる人
- 観光生産物のブランド化 …………… インタビューや体験を受け入れてくださる方

## ひとについて

### 自分にできること

- 保育環境の充実 …………… 子ども達をあずかれる
- 教育活動の推進 …………… 絵本がたくさんあるので子どもたちの図書館ができる
- 文化芸術活動の啓発 …………… 文化財の情報発信
- スポーツ施設の有効活用 …………… 自転車ルートが発信
- スポーツ指導者の確保 …………… スポーツ大会・マラソン大会への宣伝活動ができる

### 実現するために必要な人やスキル

- 教育活動の推進 …………… 古民家や民家を安く貸してくれる人
- スポーツ指導者の確保 …………… シニアスキーヤーの指導システム
- スポーツ指導者の確保 …………… シニアフィットネス出張指導



## 暮らしについて

### 自分にできること

- 交通の確保 …………… 大型自動車を運転できる
- 医療体制の拡充 …………… ボランティア電話通訳
- 介護人材の確保 …………… 高齢者福祉の勉強会
- 移住者向けの情報発信 …………… 不動産情報を発信できる
- 住民交流の促進 …………… 地下室をバンドの練習に貸せる

### 実現するために必要な人やスキル

- 交通の確保 …………… 全スキー場を結ぶ交通手段が欲しい
- 介護人材の確保 …………… 介護施設へのレクリエーションセラピー
- 住民交流の促進 …………… 若い人が意見を言える場といえる人



実施・運営 (株) studio-L [WEB](http://www.studio-l.org/) www.studio-l.org/

問合わせ先 白馬村役場総務課企画係 [E-mail](mailto:keikaku@vill.hakuba.lg.jp) keikaku@vill.hakuba.lg.jp  
TEL) 0261-72-5000 FAX) 0261-72-7001



studio-L (スタジオエル) は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。